

「史跡宇治川太閤堤跡」発掘調査の概要

調査場所	宇治市菟道丸山	発掘機関	宇治市 歴史まちづくり推進課 Tel 0774-21-1602
発掘理由	史跡整備のための詳細調査（国庫補助事業）		
調査期間	平成28年9月27日～平成29年3月末日(予定)		
発掘面積	約450㎡	発掘深度	約4m
検出遺構	護岸施設 (石出し・杭出し)	出土品	瓦・陶磁器など

1、発掘調査の経緯

太閤堤は文禄・慶長年間に豊臣秀吉が淀川と宇治川に造らせた堤防の総称です。秀吉は晩年に伏見城を築き、周辺河川を整備して伏見を交通と政治の要にしようとしたと考えられています。宇治川太閤堤跡は、平成19年度に実施した土地区画整理事業に伴う「乙方遺跡」の発掘調査で太閤堤の壮大な護岸施設が見つかり、平成21年7月23日に国の史跡に指定されました。宇治市ではこの貴重な文化財を広く公開するために、史跡公園の整備に取り組んでいます。

これまでの調査で太閤堤の護岸施設は石を積んだ石積み護岸や、杭列に横板を渡した杭留め護岸など場所によって異なることが明らかになりました。また川岸には約90mおきに「石出し」と呼ばれる水制が造りつけられており、史跡地内に4つの石出しがあったことが分かっています。下流側の1つ目の石出しのさらに下流では「杭出し」も見つかっています。

今回の発掘調査は、史跡整備のために平成21年度の発掘でその位置を確認していた3つ目の石出しの詳細な記録を作成する目的で実施しました。

水制（すいせい）: 川の流れを制御する施設で、川岸を守ったり、流されてくる土砂の堆積をコントロールして川岸の地形を造り替えたりするものです。「石出し」は、川岸から川の中に舌状に張りだし、水流を川を中心へ導いて川岸を護ります。「杭出し」は川岸から川の中に複数の杭列を打ち込み、川の流れを受け流して川岸を護る施設です。



<発掘調査の位置>

2、調査の成果

今回の調査では、太閤堤が築かれた当時の宇治川の川岸と、そこに造りつけられた石出しと杭出しを発掘しました。

川岸は、川原石を多く含んだ土を盛って整えられ、裾付近は粘板岩で覆われていました。斜面が急であることから板などの構造物で押さえていた可能性が考えられますが、有機物は腐りやすく今回の調査ではその痕跡を確認することができませんでした。下流側では、川岸から1.2mほど離れたところで、川岸と並行してのびる杭列が見つかりました。直径6cm程の細い杭が約60cm間隔で並びます。石出しの上流側で確認した川床より1mほど高い位置にあることから、途中で前面を杭で留めた犬走り状の段を設けていたとみられます。

石出しは、下半部の土台となる捨て石と、上半部の石を積んだ石出しからなります。捨て石は、河床に拳大から人頭大の粘板岩を置いています。一番高い石出しの基部付近で河床から約1.7mの高さがあります。裾には50cm程の大きな石を並べ、上面にも大きめの石を置くなど、水に流されない丈夫な土台にする工夫がみられます。石出しは、捨て石の上に石を積んでつくられています。石出しの幅は川岸との接続部分で約10m、高さは1.8mです。先端が洪水で流されて残っていないため長さは確認できませんでした。側面は粘板岩を横長に積んだ布積みで、上面は60cm程もある大きな平らな粘板岩で亀の甲羅のように丸く覆い、中には10～30cm大の粘板岩の割石を詰め込んでいます。

杭出しは、石出しの下流側で見つかりました。13cm前後の太さの杭を0.5～1m間隔で2列に並べて、川岸から川の下流側へ広がるように打ち込んでいます。杭の根元は大きな粘板岩を据えて押さえつけていました。

また、洪水によって壊れた石出しの先端付近には、後に新しく水制がつけられていました。水制は川岸と並行する方向に2列の杭を打ち込み、崩れた石出しの石材や川原石を詰めており、太閤堤が造られた後も維持管理がなされていたことが分かりました。

3、出土遺物

壊れた石出しのすぐ上に堆積する川砂の中から瓦が多く出土しました。これらは江戸時代後期に近くの瓦工房が廃棄したもので、江戸時代後期には石出しが壊れ、砂に埋もれ始めていたことが分かります。

4、まとめ

今回の調査では整備のための詳細な護岸施設の記録を作成しました。これまでの調査で確認していた1つ目の石出しは、河床から石出しの上面までの高さが2m程度でしたが、今回発掘した石出しは3.5mもある大きなものでした。石出しの下流で見つかった杭出しは、1つ目の石出しでも見つかり、石出しと杭出しがセットでつくられている可能性が考えられます。石出しの先端は洪水で壊れていましたが、当時の激しい宇治川の流れの傷跡をそのまま残し、やがて川砂に埋まり、茶園が営まれる歴史を伝えるものです。整備では、太閤堤の壮大さと現在につながる歴史を伝える史跡公園にしたいと考えています。



下流側の礫・木杭の並び

杭出し

細かい杭の並び



下流側発掘風景

川岸

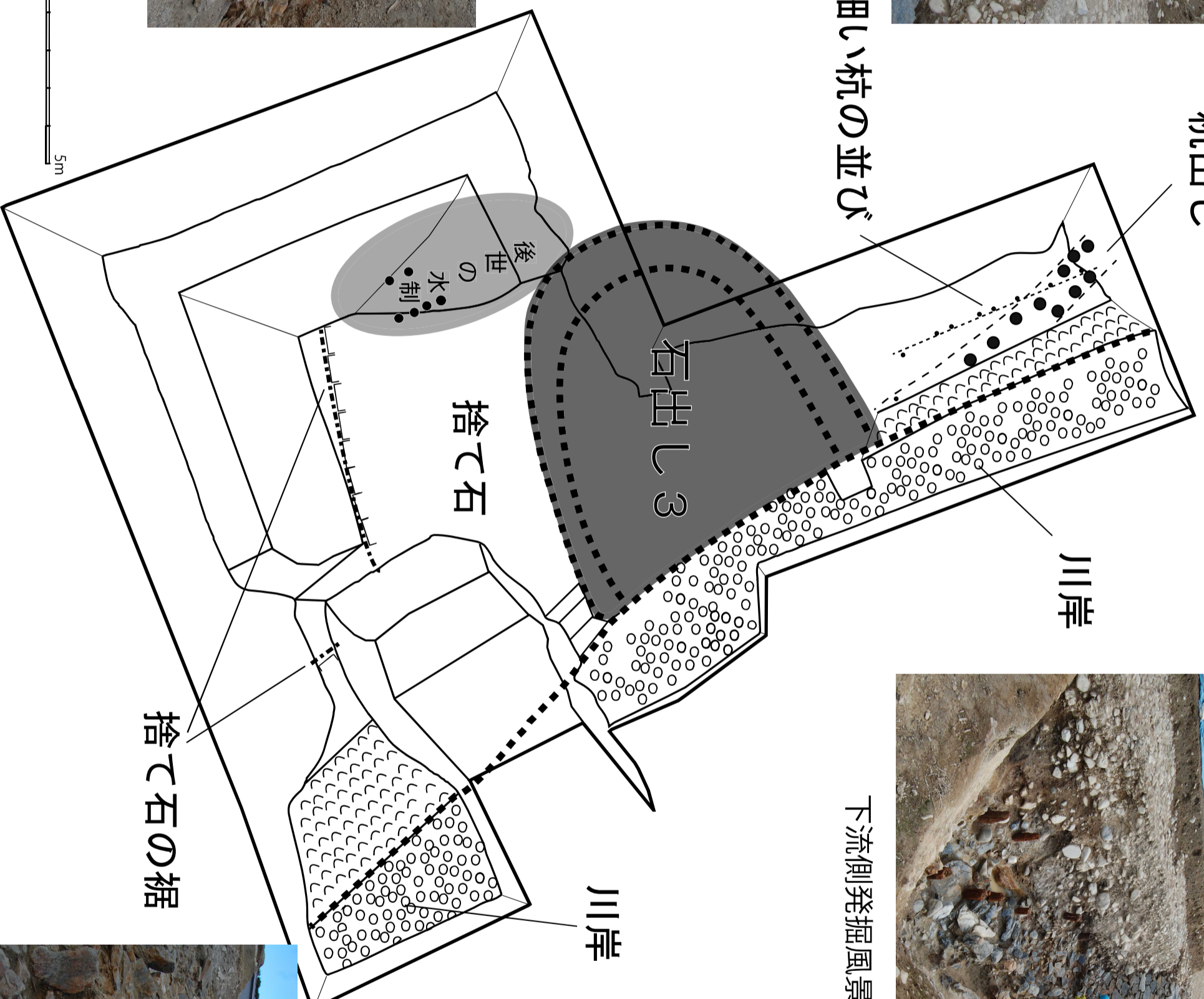
川岸



後世の水制



上流側の川岸の様子



石出しと捨て石(上流側から)